

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を掲げ、玄関の壁に掲示してある。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新入職時に職員に説明している。定期的で開催される職員会議時も、会社の理念を基準に議論を進めている。	○ 今後系統的な職員教育を行う予定であり、その中の1単位として法人理念や地域との共同の内容を組み込んでいく予定である。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	年1回開催される地区総会に参加させていただき、GHの実践報告をさせていただいている。家族や地域の方向けに定期的な通信を発行しており、事業所理念の浸透に努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方が散歩のついでに立ち寄ってくださったり、フラッと遊びに来てくれたり、ボランティアにいらしてくれたり日常的に多くの方が出入りしてくださっている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年1回の定期総会の参加をはじめとし、ホテル祭りや秋祭り等の地域行事にも積極的に参加している。	

岐阜県 グループホームくわのみ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている</p>		

岐阜県 グループホームくわのみ

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書と重要事項説明書に基づき説明を行い、質疑応答も時間をかけて行っており、理解を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんからは、日々の関わりの中で意見を聞き、不満や苦情に該当すると思われる内容については管理者に報告を受けた上で、職員会議等で対処法の検討を行っている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書・領収書送付時に1ヶ月の様子をサマリーにまとめ文書で家族に送付し、利用者の様子をお伝えしている。また定期的に通信を発行し、法人全体の活動の様子を伝えている。健康状態等に異変のあった場合は電話で必ず家族に伝え、対処法について確認しあっている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所された折に個々に話を伺うと共に、年1回家族会を開催し、家族の交流を図りつつ意見を伺う場としている。	○ 年1回の家族会に加え、これまで来所時に随時行っていたケアプランの確認を、半年に1回は行ってもらうことにより、年2回は定期的に集まっていただく機会を作り意見を伺う機会としたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に主任会議・職員会議を開催しており、意見を聞いている。また個別にも職員ごとに意見を聞く機会を設け、運営に反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	その日の活動や行司等にあわせ職員配置を通常より多くしたり、柔軟な勤務調整を行なっている。	

岐阜県 グループホームくわのみ

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>9月からデイサービス職員との交代が1名あったが、8月中はデイとGH半々の勤務とし、いきなり異動しないよう配慮した。</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>19 ○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内では観察と記録について定期的な学習会を行ったり、ミニ講習会等を行っている。外部研修への参加も奨励しており、研修費等の援助を行っている</p>	○	<p>9月から月1回の定期的な学習会と事例検討を行い、職員教育を更に計画的に行っていく予定である。管理者と主任で教育プログラムを作製し、法人内他職種とも協力して行っていく予定。</p>
<p>20 ○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>「観察と記録の学習会」は地域の同業者も一緒に参加してもらい、交流しながら行っている。また、同地域のGHとの交流会を行ったり、行事時は他施設の参加等も受けている。</p>		
<p>21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>管理者・主任・副主任は職員のストレス情報をキャッチした段階で意図的にコミュニケーションを図り、その原因を探り、緩和方法をその都度共に考案している。</p>		
<p>22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の能力に応じ、課題設定を行い目標を持って働けるよう努めている。その為状況に応じて面談の機会を設けている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	対象者が認知症ということもあり、相談・利用申込みは、家族によるものが多い。利用前には、家庭・施設を訪問し、本人と会うよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談担当の職員不在時にも、対応した職員が答えられる内容に関しては応答し、更なる対応が必要な時は、別に時間を設定し、対応している。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅支援事業所など複数のサービスを有しているので、それらのサービスとの連携はもちろん、行政や包括支援センターなどとの連絡調整も、相談内容をよく聞き対応している。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	将来的にグループホームの利用が予想されるケースや、在宅での待機者に対して、短期間の空きが出た場合などに利用を勧めている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	認知症であっても、それまでの生活で培われた知識・経験には学ぶことが多い。お茶を共にしたり、談話の時間を持ったり、又機会を捉えて、関係作りをしている。	

岐阜県 グループホームくわのみ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	月に一度は近況報告し、日々の様子を知っていただけるようにしている。面会時には、本人・家族が談笑できるように場面作りをしている。	○	時間的な問題もあるが、本人・家族の会話に職員も加わるような時間も工夫したい。 年2回程度の定期的な集いを計画したい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用開始時に話しをよく聞くことで、家族関係の理解に努めている。また面会時などに、複数の家族からの話を聞くようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の利用者であれば、馴染みの店に買い物に行くなどの取り組みをしている。 家族はもちろん、友人など馴染みの人が訪れやすいオープンな場となるよう心がけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	認知症の程度も様々で、関係作りには難しい面もあるが、食事・レクリエーション時の席などは工夫している。 また利用者の中に職員が入ることで橋渡しをするなど工夫している。	○	ケアプランの充実を図りながら、意図的な関係作りも工夫したい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	基本的には、出来るだけ最後まで利用いただけるよう努力している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時、また場を捉えて直接話を聞くだけでなく、日々の言動からも想いを汲み取れるよう努めている。	○ ケアプランのモニタリングなどを充実させ、話しを聞く場を意図的に設定する。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントを取り入れているので、家族等から情報を得る努力をしている。関わりのあったサービス事業者からは、情報を入手している。	○ 利用開始時の聞き取りだけでなく、機会を捉えてより多くの情報を得たい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	チームアプローチとして全職員で話し合いをする中で、情報を共有し、総合的に捉えられるよう努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、従来より作成している。より密なチームアプローチとなるよう工夫が必要。	○ 新規利用者には1カ月を目途に、全職員で情報収集しアセスメントシートに記入する。また6カ月ごとに職員間の話し合いを持つ。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しをしているが、定期的に行っていない。	○ 6カ月毎の見直しをしていく。

岐阜県. グループホームくわのみ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に関しては、専門の研修会への参加を事業所としてバックアップしており、内容の充実が図られている。まだ、介護計画への見直しには十分生かされていない。	○	ミニカンファレンスを充実し、日々の実践につなげたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	小人数であり、小回りの利く特性を生かしている。状況に応じて、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	子どもから高齢者まで幅広いボランティアの協力が得られている。防災・救急法の研修など、消防署の協力も得ている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて対応できる体制はある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて対応できる体制はある。現在、対象者がいない。		

岐阜県. グループホームくわのみ

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

岐阜県 グループホームくわのみ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えのケースはほとんどない。必要な場合は、家族・関係機関と連携をとることができる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄や入浴はさりげなく、その人のペースに合わせた声かけや対応を心がけている。記録は事務所に保管し、外部の目に触れない様にしている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	外出の際もどこへ行きたいか？外食では何が食べたいか？などなど、入居者の希望をお聞きした上で決定する様にしている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に一日のスケジュールは決まってなく、入居者からでた言葉から一日の活動を考える事が多い。活動も、全員が強制的にはなく、その人のペースや気分に沿って行なっている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	職員に美容師の資格を持っている者が2名いるので、カットは定期的に行なっている。ご本人やご家族の希望によって、カラーリングやパーマも行なっている。		

岐阜県 グループホームくわのみ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は、畑に野菜を取りに行き下さる方、その野菜を切って下さる方、盛り付け、洗い直しなど、入居者それぞれが自分でできる事をやっただく様にしている。出来上がった食事は入居者・職員と一緒に会話を楽しみながら、いただいている。	○	料理カード等を用いて個々の好みを引き出し、一連の食事活動につなげていく。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	毎週土曜の夜は「お酒の日」とし、夕食時にお酒を出し好きな方はそれを楽しみにしてみえる。また、おやつ時の飲み物もコーヒーの好きな方にはコーヒー、お茶の好きな方にはお茶と、ご本人に選んでもらっている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者9名全員がリハビリパンツを使用。8名が尿取りパットを使用してみえるが、日中はご自分で行けない方には適時に排泄誘導し、トイレでの排泄が出来るような対応をしている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後からが、主に入浴の時間になっているが、曜日や時間帯に特に決まりはないので、ご本人の入りたいタイミングで入っていただいている。入浴の嫌いな方に対しては、声かけ等の工夫をし気持ちよく入浴していただける様つとめている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	各入居者の睡眠パターンを把握し、安心して入眠できるように支援している。夜間不眠の方には、事務所にてじっくり話を聞いたりお茶を飲んで気分を落ち着かせてもらったり、寝つくまで隣で添い寝するなどの対応をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各入居者の得意な事やできることについて、畑仕事・料理・裁縫・洗濯たみなどなど役割意識を持ってやっただくしている。また、散歩の好きな方は食後の散歩をご自身の日課とされたり、喫茶店の好きな方は、外出の際にコーヒーを飲んでみえたりしている。		

岐阜県 グループホームくわのみ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際も、ご自分で財布を持ちレジでの会計もご自分でできる方にはやっていたりしている。お金が手元にないと不安な方に対しては、ご自分の財布で管理していただいています。	○	今は数名の財布を預っているが、今後も希望に応じて預り外出時には、自分で支払えるよう支援する。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望にそって、散歩や買い物、喫茶店に行ったり牧場に行ったりと外出は日常的に行なっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に一度（秋）日帰り旅行を行っている。ご家族・ボランティアさんにも参加していただいている。昨年は、岩村から40分程の所にある温泉旅館に行ってきた。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご本人とご家族との家族関係などをふまえた上で職員があらかじめご家族に状況を説明し、ご本人とお話しをされている。手紙も、ご家族の方からはがきが届くと返事を書いて出すなどしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人・親戚の方は、日常的に頻繁に訪ねて来て下さっている。一緒にお茶を飲んで、居室でゆっくりお話しをされたり、時には外食に行かれたりもしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。ただしベッドからの転落等の危険が予測される場合には、本人とご家族に了承を得た上でベッド柵はする場合がある。		

岐阜県 グループホームくわのみ

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	○	置き場所の徹底をし、使ったら必ず元に戻す様習慣つける。
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	まだまだ職員の知識・技術共に不足しているので、勉強会を定期的に行っていきたい。ヒヤリ・ハット、事故報告書から対応策を講じていく。
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	今後も定期的に行って行く。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	夜間帯を想定しての訓練はまだ行っていないが、夜間は一人体制の為、訓練しておく必要あり。

岐阜県. グループホームくわのみ

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	随時、家族に電話もしくは面接にて話しをし、対応策については家族と確認の上に検討している。	○	家族との面接を定期化し、予測されるリスクについても説明・対策を話しあっていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、入居者全員バイタルチェックを行いその日の健康状態を把握している。異変時は、看護師の指示を受け経過観察あるいは医療機関を受診するなどの対応をとっている。その際の様子や結果は個人の記録・日報に記入し申し送っている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員がすべての薬の作用や副作用を熟知しているとは言えない状況である。	○	服薬している薬についての知識を深めていく。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を作り、毎日排便の様子をチェックしている。	○	排泄チェック表をつけてはいるが、排便の確認は本人の自己申請だけでは充分でないので、確認方法や便秘時の対応については検討していく必要あり。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	就寝前に義歯を預り洗浄し、ポリデントにつけて消毒しています。また、就寝前には口をすすぎ口腔ケアをしている。	○	就寝前、起床時のケアを徹底する。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は、入居者の食事摂取量を毎日記録にしているため、それを元に少なめにしたりと調節している。水分は、食事時と10時・3時のおやつ時にお茶やコーヒーなどで摂取している。		

岐阜県. グループホームくわのみ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症対策マニュアルを作っている。これまでのところ感染症は発生していない。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品は賞味期限を遵守し、作った料理はその食事ごとに食べきり、次に回すことはしていない。また、布巾やまな板、包丁は夜、キッチンハイターで消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は、主にフォーマルなお客様の出入りのみで、家族や近隣の方はデッキに続く扉から出入りしてもらっている。スロープには鉢植えの花を飾り、入居者の方が毎日水やりもして下さっている。誰もが気楽に出入りできる様オープンにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の花を飾って、季節感を取り入れています。また、テレビは誰も見ていない時は極力消す様にし、BGMとして童謡や懐メロを流し、ゆったりとした雰囲気作りをしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に畳コーナーがあり、冬はそこにこたつを置くので気の合った者同士、こたつに入っておしゃべりをしている。また、デッキにもテーブルがあるので、気候の良い時はデッキに出てお茶を飲んだり、外の景色を眺めながらおしゃべりされたりしている。		

岐阜県 グループホームくわのみ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご本人が使ってみえた家具や思い出の写真などがしつらえてある。	○	押入れの中が乱雑になってきているので、入居者と一緒に整理整頓できる時間を作っていききたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室には、24時間換気扇を設置し、常時換気を行っています。また、居室の窓は毎朝開けて換気している。 エアコンを使用する際は、入居者の体感を確認しながら常時調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室などの必要箇所には手すりをつけている。浴室にはシャワーチェアを置き、滑り止めをつけている。居室のベッドは寝たきり状態になった場合の介護にも対応できるよう、スリーモーターの電動ベッドを使用している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口に入居者の好みに合わせたのれんをかけ居室の識別をしていただいている。入居したばかりの人やショート利用の方で、また居室やトイレの場所が分からない方に対しては一時的に、居室に名前を書いた貼り紙をして、認識してもらっている。	○	のれんだけでは自分の居室の認識ができない方もみえるので、表札となる様な写真たてを制作予定。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季候の良い時期は、デッキにでてお茶を飲んだり日なたぼっこをして過ごしている。 外周りには、いちごが植えてあり収穫の時期には毎朝入居者が収穫に行ってください。	○	外回りの事は、草取りや花の管理などボランティアさんに頼っている部分が多いので、入居者・職員主体でやっていけるとよい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

岐阜県 グループホームくわのみ

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 毎日外へ出て戸外の空気に触れるようにしている。
- ・ 音楽や歌の好きな入居者が多いので、音楽療法士と一緒に歌や音楽を使った取り組みを日常的に行っている。
- ・ 畑の野菜を収穫したり採れたさつま芋、栗、柿、大根などを干したり、加工したり昔馴染んだ取り組みを行っている。
- ・ ボランティアさんや近所の方が、毎日のように訪ねてくださりにぎやかである。